命を守るために

――東日本大震災を経て学んだこと――

櫻　井　広　行

〈講師紹介〉

早稲田大学卒業後、株式会社仙台水産勤務を経て、現在、株式会社さくらい水産の代表取締役、ゆりあげ港朝市協同組合の代表理事も務めておられる。

〈講演〉

◆東海道新幹線の危機意識

今日は新幹線で来ました。先日､「そこまで言って委員会」というテレビを見ましたが、そこで鉄道の専門家が出ていました｡東海道新幹線の浜松、浜名湖近辺が一番危ない、それはなぜか。土手の上に新幹線が走っているのです。ほとんどは高架橋で、津波が抜けられるのですが、東海道は10キロに1本ずつ、新幹線が走っているのですってね。だから大渋滞になる。もし土手の上に車がとまったら、完璧に津波にやられるんです。

私は4年前、浜松のイオンモールで講演会をしたときに、ちょうど土手の上を新幹線が走っているので、「あれっ」と思いましたね。その後、何も変わっていません。講演会でそういう話をしていました。そうしたら、たまたま専門家が突如、私が言っていたことと同じことを言っていたので、ちょっと感動しました。

◆震災差別

もう一つちょっと残念なことですね、横浜の中学生が、福島原発で転校したでしょう、それで自殺したということなのです。震災の後、いろんなことが起きました。

福島の原発の被災者は、毎月1人10万円ずつもらえます。5人家族で50万もらえます。ですから裕福に暮らしています。それ以外の福島県民は、「さんざん原発でいい思いをしてきて、今さら…」という思いをもつのです。原発があった地域はほとんど就職活動をする必要がなくどこでも勤められました、それがあんなふうになって､毎月10万ずつもらっているというふうになっちゃった。被災した福島県民とそうでない県民はものすごく離れています。

なぜそれを知ったかというと、震災の年、6月か7月ごろかな。いわき市の仮設住宅に置いている車がしょっちゅうパンクさせられたり傷つけられるというニュースがありました。いわき市の水産加工場の友達に電話して聞いてみたところ､「そんなの、当たり前だ」と言うのです。「えーっ」と思いましたね。週末になると、居酒屋とカラオケとパチンコ屋は、仮設住宅の人間でいっぱいになるそうです。で、いわきは被災地でないものですから、一生懸命仕事をしなくちゃならないと。

ですから、大変な被害に遭っても、実際、みんなが助け合うしというふうな状況じゃない。特に福島県はそうなってしまいました。誰が悪いのかはちょっとわかりません。

◆津波の悲惨さ

5年半前、ちょっと思い出してもらえればいいと思いますね。2時46分です。

この辺に名取川という川があります。その近く

の道です。この閖上町に約5,300人住んでいました。そのうち750人が犠牲者です。同じ地域で100人亡くなっています。そこを車で通った人と、あと、閖上（ゆりあげ）に実家があって親が心配で突っ込んだ人を合わせて100人亡くなっています。

道路は割れて、水が吹き出しました。建物はあまり壊れていません。3軒壊れましたけど、そこは40年間人が住んでいなかったところです。建築基準というのがあって、ちゃんとしていたと思います。屋根瓦がずり落ちることは結構ありましたけど、崩壊したとか、傾いたという家はほとんどありませんでした。

このとき、我々、何を考えたかというと、ただ、「ああ、ああ、ああ」と言うだけで、津波ということは100％頭にありませんでした。14時46分の1時間5分後です、津波が襲ってきたのは。ですから、ちゃんとした訓練さえしていれば、全員助かったんです。1時間もあったのですから。

閖上地区の避難所というのは、公民館と中学校、小学校がありました。中学校と小学校は3階建て、公民館は2階建てです。15時30分に、公民館から300 m先の中学校に移動するという時に津波が来ました。すごく速いスピードで来るのです。

この瓦れき（講演会では映像を見せてもらっています―編者補足）の中にはおそらく200体から300体がのまれています。銀行員が「後ろをふり向いたらお年寄りが全部津波にのまれた、それを見ながら中学校にやっと着いた」と言っていました。

テレビや新聞で報道されていませんが、この瓦れきに身体が入ると、基本的にはミキサーです。遺体の80％や90％は、車で見つかった以外の遺体は、手足がないのが普通です。また生きているうちに顔面をぶつけます。腫れます。腫れてから死ぬので、顔が膨らんだまま遺体になっています。服は、海底のヘドロの粒子の細かいものに侵されているので、色は全部同じ色です。洗っても取れないそうです。

津波でこんなふうになると、ひどい状況になってくるのです。瓦れきを退かすと遺体がごろごろ出てきます。瓦れきを整理して、地面を見ると手首や指がごろごろしている。報道は、何人が亡くなったという数字がいっぱい出ますけど、現場の現状はそういうふうです。

遺体が上がるたびに遺体安置所に置かれ、そこに連絡のとれない家族がいる人は毎日通います。毎日、新しい遺体と対面します。30日も続くと、「もうこれでいいわ」という思いになるそうです。

津波が来るのは10年以内かもしれません。皆さんの家族がそうなる可能性があるということをまずたたき込んでください。自分は大丈夫だと誰でも思っています。自分の家族が、本当にそれで全部大丈夫かということを考えてください。

◆映像を見ながら

ここは仙台空港の2階のロビーです。地域の避難所になっていました。津波がここに来ます。津波が3 mの高さになるまで1分とかかりません。津波の速さは計算上でいいますと、150km先の震源地から1時間で来ますので、海の中は150km/hの速さで来ます。上陸すると、建物とか障害物がいろいろとありますけど、基本的には60から70km/hです。ですから、近くに鉄筋コンクリートの建物がないときにはほとんど「アウト」です。

ショッピング街などの建物が多い所は、津波は、建物の間を迂回しながら来ます。どっちの方向から来るかわからないということです。

あと、東京や名古屋の場合、これが全部、地下には入ります。地下に入って、おそらく10km先のところでマンホールがぽーんと上がるという状況も考えられます。地下鉄、地下街関係は非常に危ないのです。津波が想定されるときは、鉄筋コンクリートの高い建物にいち早く逃げてください。それしか命が助かる方法はありません。

これは仙台から南へ約60kmの福島県相馬市です。ここは閖上よりも10分先にやられているところです。東海・東南海・南海の海岸線と同じ状況です。遠州灘、知多半島、それから三重県和歌

山、高知、宮崎、鹿児島は、おそらくこれと同じような状況になると思われます。

南三陸町はリアス式海岸です。5 階建ての病院がありますが 4 階まで全部津波に抜かれています。これが津波のパワーです。この地域にもおそらく来ます。この（5 階建ての）建物に 2 分前に車を捨てて逃げれば、ここにいた（道を歩いていた）人は助かったはずです。おふたり亡くなっています。そうですね、100 万円、300 万円もする車に乗っていって、助かればラッキーですけどね。

今度はいわゆるリアス式海岸の津波です。南三陸町です。この煙は家が壊れたときのほこりです。火事ではありません。鉄筋がぶち切れて、鉄筋の建物は床しか残っていません。普通の家も床だけになっています。私の家も床しか残っていません。鉄筋の工場は全てセメントの床しか残っていません。このように、床と離れた建物が船のように襲ってきます。決して CG じゃありません。これ、本物です。

県立志津川高校は避難所になっていました。閖上と同じく、避難所の前の家の人は逃げないのです。「津波が来てから逃げるから」と言うのですね。はい、やっと出てきました。ここまで津波が来ています。1 人、2 人、3 人、4 人、あとこっち側に 1 人います。もう 1 人、2 人。助かったのはこの人だけです。

高校ですが、山になって、ここに階段はありません。ぐるっと回らなくてはなりません。この瓦れきにのまれるとどうなるか、先ほど説明しましたね。確実に 30 秒から 1 分以内にのまれています。カメラものまれるところを確認した後を映します。

次を見ましょう。我々のまちの閖上というところが流されています。この映像が世界で最初に発信された映像です。名取川という川を津波が西側に上っていきます。ここに、閖上というまち、約 5,300 人のまちが半分潰されている映像が出ます。これも煙になっています。ここ、まちが全部潰れています。

◆私たちの防災意識について

あの日、何が起きたかということです。閖上では避難所としては公民館が 1 つありました。これは 2 階建てです。あと中学校と小学校もありました。ほとんど避難訓練は公民館でやっていましたので、ほとんどの人は公民館に行きました。

実は 2001 年に、公民館は 2 階建てなので津波に耐えられないので、避難所を変更しなさいという、消防署から名取市のほうに要望がありました。しかし津波が来るまでそこで避難訓練していました。まちの全員が誰もが公民館が避難所であると思っていました。

皆さんに質問します。家に『防災マニュアル』を持っている人、手を挙げてください。（一人も挙手せず）初めてです、1 人もいないというのは。考えてくださいよ。全ての自治体は『防災マニュアル』をつくっています。お金のないところは『防災マップ』にしています。町内会長さんはそれを配っているはずですよ。

東京都もこんなに厚い『防災マニュアル』と各区･市の『防災マニュアル』の 2 冊あるのですが、東京の人に聞くと、手を挙げるのは 3％ぐらいですね。田舎の人は 10％ぐらい挙げます。

『防災マニュアル』、これ、全部防災予算でやっています。本来、皆さんの命を守らなくちゃならないお金が全部印刷所に消えているのですね。あと、ごみ焼却炉に行っています。それ、誰が悪いのですか。行政じゃないですよ。皆さんが悪いんです。行政がいいかげんなんじゃないのです。そういういいかげんな行政をつくったのは、実は私たちなのです。そこから話を出発しないと何の解決もできないと思います。今日帰って、『防災マニュアル』ってあったかと奥さんや家族に聞いてください。学生の方は実家へ電話してお母さんに聞いてみてください。

今日は皆さん防災訓練をしましたね。楽しかった人は手を挙げてください。結構楽しそうにやっていましたよね。ヘルメットをかぶってにこにこして。日本全国の防災訓練、みんなこんな顔をし

てやっています。実は、閖上の避難訓練もそうだったのですね。町内会長が一生懸命、近所の年寄りを集めて、ちょっと参加してくれってやって、みんなで避難、公民館まで歩いていきます。山形県と宮城県では、有名な秋の芋煮、里芋を使って、芋煮鍋というんです。着くともれなく、芋煮鍋をふるまうのです。聞いたら、大体全国同じですよ。我々のところはレベルが高いので芋煮鍋だったんですよ。ほかのところは焼きそばかもしれないし、金のあるところは弁当だったかもしれない。町内会長に聞くと「何か食べ物を出さないと来ないんだわ」と言うのです。

皆さん、学校の先生、学生さんたち、よくわかるでしょう、何のために防災訓練をやるかというと、万が一のときに命を救うためですよね。自分の命、自分の家族の命を救うために勉強するのに、飯が出ねえ、ジュースが出ねえ、お茶が出ねえからやらない、行かねえなんて言っているのです。これが今の日本人なのです。終わると町内会の役員らとちょっと反省会で飲み会します。そこまで予算に入っています。それがおそらく大半の地域の現状だと思います。

この閖上という地区で750人亡くなったのですが、お年寄りを説得するのに結構時間がかかりました。皆、死んじゃったのですね。消防団15人、警察6人、町内会長2人、市会議員2人が亡くなっています。お年寄りは言うことを聞きません。説得する時間はありません。

皆さん、これから自分のまちに帰っていったら、特に若い学生の方は仕事でいろんな地域、学校とか行くと思いますが、まず地域にお願いしたいことは、「全員避難と言ったときに残った人は全部見捨てる」という言葉を使って地域のコンセンサスをとってください。消防団や警察は、年寄りがいるのをわかっていて（自分だけ）逃げることはできません。（しかし連れて逃げて）何も起こらなかったら、何だ、あいつらとこうなります。ですから、お年寄りを集めてちゃんと話してくださいね。

何でこんなことを言うかというと、（亡くなった）警察も消防団も皆子どもがいたのです。このおやじども、みんな死んじまった。もう見ていられないよ、言うことを聞かない年寄りのために、というふうな話をしてください。基本的に、地域の防災は年寄りを見捨てるつもりでやってくださいね。でも内緒で見捨てちゃだめですよ。見捨てるって公言して議論をして見捨てることにしてくださいよ。それが一番大事なことです。

あと、回覧版はもうやめて。回覧版は80％以上見ていません。ただハンコを押すだけで人間関係を壊したりしているんです。全てメールにしてください。メールできない人は、1軒ずつ書類を置いてください。できれば今年中にメールの仕方を教えてください。学生の皆さん、ぜひ地域に戻ったらそういうことを考えてください。

あと、町内会長は女性にする。これが一番大事です。女性は子どもとかいろいろ扱っていますので、町のことをわかっています。あそこに行くと変な男が出るとか、あそこのドブが危ないとか。おやじは、朝行って酔っぱらって帰ってきますから、町が全然わかりません。65歳とか70歳になって定年してから町内活動をして、唯一おやじにとっては、町内会の役員会がコミュニティーの場なんです。ですから役員会をやっても、18時からやって、30分もやれば飲み会なので、何を話したかわかっていない。次の日、市役所の書類を読んで、こんなふうに話したとやります。お母さんたちは、14時から始まって16時に終わります。あと、決まったことはメールでチェックできます。そういう方向で町の中を考えてみてください。

「あの日」は卒業式だったですね。知り合いのいたわかば幼稚園の卒園式がありました。そこで4人亡くなっています、園長も。閖上中学校の卒業式もありました。小学校は卒業式、なかったんです。幼稚園児4人亡くなって、中学生14人亡くなりました。野球部の3人が亡くなっていますね。「じいちゃん、ばあちゃんが心配だから」って自宅に戻って、そのまま亡くなっています。

中学校の遺族会会長のお母さんは、実は公民館で謝恩会をやっていました。3年生の長男と一緒

に謝恩会に出て、次男の1年生は公民館の外の校庭で遊んでいると思ったそうです。15時半に消防団が来て、300 m先の中学校が3階建てだから、そっちに移動してくれと言われたときに、子どもを探した。しかしいなかったので、おそらく先に行っていると思ったそうです。走って逃げて、津波に襲われて、中学校の校舎の周りが全部、海になりました。その後、校舎中探しました。子どもはいません。3日後、波が引いて、避難所に移して、それでも子どもと会えません。1週間、10日後ですかね、遺体で見つかった。その10日間、どういう気持ちだかわかりますか。頭では私は理解できますけど。1年半のほとんど、こんな感じですよね。

1年過ぎ、ちょっとお話を聞いているときに、彼女の言葉から、「子どもというのは必ず、確実に明日がある。確実にある明日を自分のせいでなくしてしまった」と言っていました。理解はできますけど、どのぐらいすごいことなのかはなかなかわからない。ですけど、そういうことなんです。

◆災害と学校

閖上小学校では、14時46分に地震になったときに校長が、先生を全部外に出して、下校した1、2年生を全員回収しました。その後、親が「子どもを迎えに来ました」と言ったら、この校長、すごかった。「法律で子どもを帰さなくていいんだ」って。そういう校長権限があるのですって。そのことをちゃんと勉強していた。で、「帰せない」と言い、親は「何で帰さないんだ」と言う。「法律で帰さなくていいから帰さない」と言うわけ。「何を言っているんだ」と言われるけど帰しません。相当な迫力だったので、親もしようがないなと思って、子どもたちは3階の教室、親は3階の廊下で待機しました。ところが、今は便利ですね、ワンセグでテレビを見たら、名取市の津波到達時刻15時40分と載ったそうなのです。しかし15時40分過ぎたが津波は来ていないし、見えない。「津波は来ないだろう、帰せ」と。それでちょっと校長も困ったのだけど、「わかりました、じゃ、1階の体育館で1回点呼をとりましょう」と。小学生130人、保育園児45人、この保育園児は、海のそばから軽乗用車5台で積み込まれて運ばれて、園長先生の機転で、それも全部積み込んで小学校へ逃げてきた。あと、周りの住民30人、1階におりていって点呼をとる体育館に行きました。最後の20人のときに津波がどーっと来た。「津波だ！」と言って、外階段から3階に上がって、全員助かったのです。15時40分に津波がないから「帰せコール」が起きますよ。親が「帰せ、帰せ」って。いかに無知な人がいて大騒ぎするか。万が一、津波が3分おくれたら、あと雪が降ってきたりしたら、寒いからドアを閉めて、津波が来て、約200人の棺おけが出たかもしれない。

ですから、きちっと自然災害に対して、私たち、大人がちゃんと勉強しなくちゃならないし、せめて小学校6年、中学校3年、9年間の間に、日本というのは自然災害の宝庫なのですよ、地震、津波、台風、何だといっぱいありますね。世界でこんなに自然災害の多いところはないはずなので、9年間、日本の学校へ通ったら、全ての自然災害に対しては、基本的な初動動作とか、算数ができなくたっていいから、そういうことをきちっと我々が教えなくちゃいけないし、そういう体制をつくってあげなくちゃいけないのじゃないかなと思います。

さっき映った南三陸町、戸倉小学校というのがあります。3階建てです。小学校の校長が栃木県出身です。津波の2年前に、「津波が来たらどこに逃げるか」と会議を開いたら、地元出身の先生が、「お母さんの先生が、昔から津波は移動できるところに逃げることだというふうに言われた」と。「津波が沖に起きたら、上、上」と言う。「山」と言ったら、校長は「3階建ての屋上があるから、別に構わないんじゃないの」と言ったそうです。強硬に地元の先生は反対する。そのまま結論を出さないで当日を迎えて、校長は、「じゃ、裏山」と決めたそうです。全員が校門前へ集合したから、隣の幼稚園が小学校に入ってくる。「えっ、どう

したの。うちの避難所は小学校の屋上なの？」

どういうことかわかりますか。小学校が、市とかまちの教育委員会の管轄、保育所とか幼稚園は、市のまちの行政の管轄なのです。隣にあっても逃げるところが違うと。皆さんご存じの縦割り行政で。そういうことが、こんなに大きい犠牲が出て、やっとわかるのです。

岩手県宮古市の保育園の3人は親が迎えに来た。保育所というのは帰さないという権限がないのですって。で、帰したのだって。やっぱり2人死んだ。保育園の先生、泣いていたのですけどね、「帰すんじゃなかった」って。

ということです。ですから、今回こういう大きい犠牲が出たというのは、我々から言うと、ほとんど人災ですね。そう思います。

◆「てんでんこ」

70年か80年前に、チリ沖地震で今のように1万人ぐらい亡くなっているのかな。そのときに学んだことは「てんでんこ」、「一人ひとりが勘で逃げろ」ということ。あともう一つ、「早く逃げろ」ということです。「地震が来たら、早く山へ登れ」ということです。

今回もそのとおりだったのです。ところが、時代が変化していた。リアス式海岸というのは山と海岸が狭く、道路が細かいので、各地で大渋滞がおき、車が全部やられています。私は1カ月後に南三陸町へ行って話を聞いたら、車にいたから挟まっていたけど遺体が見つかったという。車と番号とかで、自分の家族とわかったそうです。そうでない人は、流されたか、体がばらばらになって何が何だかわからないということが言いたいのです。自然災害って、地震だ何だとありますけど、津波の瓦れきに分断された体はちょっと見るに耐えません。私も1回、ちょっと行ってきましたけど、いろんな匂いとかですね。1週間、2週間しても、鼻からガスがどっと出ますからね。ヘドロがぼっと出てきます。大変なことですけど、覚えてください。自分の家族がそうなる可能性があるということです。

◆行政まかせから住民主体の防災へ

当然の基本は、最初は「一人ひとり」にあります。一人ひとりの意識です。その次に「家族」です。その次に「学校」です。その次に「地域」です。防災意識、防災訓練、防災教育、やることは非常に簡単です。なぜなら行政や議員や政治家は、お年寄りの意識、命、子どもの命を挙げると、絶対に言うことを聞きます。

皆さんが、今までの訓練や防災教育のやり方はだめなのだということを最初にやらないと絶対に前に進みません。閖上だったら、芋煮鍋が避難訓練ですからね。おそらく日本全国、大してレベル、変わらないんじゃないですか。

行政にとっては予算を消化することが防災行政なのです。市民とか住民の命を自分の家族の命のように考えることは絶対にあり得ません。約18,000人弱の犠牲者が出たにもかかわらず、我々、東日本震災の犠牲者は何の役にも立っていない。

2年前の8月、広島の土砂崩れがありましたね。テレビを見たら、土砂崩れが起きるというのは誰でもわかる。わかっていたはずです。去年の常総市では、堤防が決壊してから避難命令を出しているのです。行政がさぼっているのじゃない。行政の力はそんなものなのです。それに命を預けるのかということです。

閖上地区では、特養老人ホームがありまして、1階建ての平家に40人、体を動かせないお年寄りがいました。あと2階と3階に車椅子や体の動ける老人がいました。逃げるときに1階の老人は全部見捨てられました。バスに乗せるのに、体の動ける人をどんどんどんどん乗せて、中学校まで運びました。あとは車椅子を押しながら、看護師さんが中学校まで行きましたけど、津波が来て、車椅子を放して逃げました。自分の命を優先するかは責められることじゃない。40人、1階の平家にいて、津波が来て、部屋中海水だらけになって、そのままベッドから落ちてきたんじゃないですか

ね。40 人のうち 7 人はベッドの上できれいに寝ていたそうです。

沿岸地区とか、川が近いとかというときに、体の動きができないお年寄りを 3 階に置くのか、1 階に置くのか、私にはわからないですよ、経営者じゃないですから。普通のルーティングとか、仕事がしやすいためには、体を動かさない人が 1 階にいたほうが便利なことかもわかりませんよ。こういうことが起きると、1 階で動かせない人たちは全部溺れて死ぬということです。ということが、我々、体験としているのですけどこれが伝わっていない。

日本全国防災何とか会とかがいっぱいあります。人というのは、組織図をつくって名前を入れると、仕事が終わったって勘違いします。何かが起きるとわかります。全員が知らんぷりするのです。組織図よりも現場が大事、現場を大事にしてください。現場がそれで本当に動くのということをとんと考えてください。

あと、我々は大人の義務として、保育所、幼稚園、小学校、中学校に子どもがいるときには、絶対に安全だということを保障しなくちゃいけないのです。地震、津波が起きたときに、「子どもは学校だ」と聞いただけで安心できますから。そして身近な家族とか、自分の命を守ることを最優先にできます。その時間帯以外はほとんど、子どもたちが遊んでいるか、家族でいる時間ですから。

特に沿岸部が多い愛知県、三重、和歌山、静岡あたりの海岸、いるところはちゃんとなっていますかということの確認をとるだけでも私はいいことと思いますよ。「子どもたちが下校している、ここまで来たな」、「うちに戻れない、なら学校に戻れ」とか、話し合いとかちゃんとしていますか。ちゃんと話し合いしているということを聞いたことがあるという人、手を挙げてください。うちの学校はそうなっています。私が卒業した小学校でそうなっているということをちゃんとやってください。

石巻市の大川小学校というところがあります。70 人ぐらい亡くなったのかな。45 分か 50 分ごろ、校庭に留まっちゃって、「どうするべ、どうするべ」と言って死んじゃったんだ。裁判をしたら、学校の先生がちゃんと判断しなかったということで、遺族が勝訴したのですけど、石巻市と宮城県は上告しました。石巻市長の話を聞くと、すごいことを言っている。「子どもたちの命を守るために一生懸命やった先生たちをこれ以上責めるわけにいかないでしょう。」そのとおりですけど、私にはそう聞こえなかった。学校の先生に、「津波とか地震が来たらこういうふうにしろ」ということをちゃんとマニュアルもつくっていないし、学校の先生になるためにそういう教育もしていなかった市と県の教育委員会に問題があるのです。学校の先生が悪いわけじゃないのです。

学校の先生はもうそれでいろいろ心配して失敗したけど、学校の先生になるのだったら、そんなことは事前にちゃんと教育しなくちゃいけなかったんだよ。そんなことをさぼっていた県教育委員と市の教育委員が悪いのだよ。それを「学校の先生がまるでかわいそうだ」と言って、自分の責任を回避しているとしか聞こえませんでした。学校の先生だってやっぱり組織の人間ですから、何だかんだ言えないのです。

あれから何も変わっていない。愛知県は変わっていますかね。

学校の先生って、いつも同じですよ。1 人のちょっとした防災意識の高い先生が回るだけで、防災意識が高くなります。そういう組織づくりをこの大学でぜひ始めていただきたいなと思います。若い人、いっぱいいます。

個人的見解ですけど、最近、何か地震が多いですよね。NHK の防災関係のテレビはいつもビデオをとっているんです。探知機みたいなものが宮崎沖と高知沖と和歌山沖と、あと三重県沖とかにあって、相当やばいですよ、これ。どーんと来ますよ。

大学の先生に聞くと、10 年以内とはまだわからないと言います。責任もないですから。100 年以内には確実だと言います。自分が責任をとらなくていいや、自分は死んじゃっているから大丈夫

ですというか、5年、10年と言うと大騒ぎになりますからね。あの雰囲気からすると、相当危機が高いということですよ。ところが、防災意識は全然変わっていない。行政の一部だけ頑張っている。それが学校とか地域には伝わっていない。それが現状です。

あと、閖上は防災無線が壊れたのです。半年前につくった防災無線が本番のときに鳴らなかった。市役所の屋上にある電波を発信するところのヒューズが切れたそうです。NHKの調査では被災地28カ所の防災無線が壊れたそうです。防災無線は何で必要なのか、地震とか災害のために連絡することが大事だから必要なのですよ。ところが地震で防災無線が壊れたのです。誰も責任とりません。予算が決まって、予算を消化して、防災無線らしき鉄塔やスピーカーができましたって、それで終わるんです。

あと、行政は引き継ぎをしません。大体3年に一回人事異動がありますが引き継ぎしないんですよ。書類にはハンコを押しますよ。後でわからなかった、というような状態です。

防災担当職員が一生懸命「避難してください」とマイクに向かってしゃべりました。左側で緑ランプが点滅しています。この緑ランプは何だと思う？電波は飛んでいない、発信していませんというランプの色だったなんて、引き継ぎをちゃんとしないからわからなかった。だから「1カ月間、放送しました」と言っていました。電波が飛んだかどうかわからないのだけど、「マイクに向かって放送しました」と言っています。その日、夜、屋上へ行って、ヒューズが飛んで電波は飛んでいないと言う。その後、半年したらその機材がメーカーに持ち帰られて、よくわからなくなっちゃった。防災無線を設置する半年前に、日立に調査事業でやらせました。本体をつくるときに入札したら、NECが落札しました。NECが落札したら、全部日立に丸投げしました。途中で、何で安いのかなと思っているんですけど、犯人探しはしません。見つかったら逮捕じゃ済まないから。そういうのが現状です。

◆住民主体の防災意識を活かしていく

私がここにいるのは、たった1つの理由です。実は、津波の5年か6年ぐらい前かな、うちでおやじの七回忌がありまして、姉と妹の家族が来て、お坊さんに拝んでもらって、あと、酒を飲んだんです。たまたまNHKのテレビで、30年以内に東日本地域に99％の確率で大地震と大津波が来ると。「えっ」と思って、そこで「何か起きたら妹のうちへ逃げる」と決めました。妹というのは6ｋｍ先の高台の団地に住んでいましたから。ただそれだけだったんです。「どーん」と来て、私は家族を乗せて、一目散に妹の家に行きました。

私の組合の前の前の理事長は、奥さんと2人で公民館に逃げました。公民館に車で着いておりました。奥さんは奥さんの友達のところへ行きます、お父さんはお父さんの友達に行きます。15時半に、全員、中学校に避難してくださいって。奥さんを探す暇がなくなっちゃって、奥さんを亡くしています。避難所に行ったら、家族がずっと一緒にいるということは絶対ないです。もう一つ、探すという行為をやると時間がかかります。おそらくそれで亡くなった方もいます。

あと、15時半に中学校に移動してくださいと言ったときに、ワンセグで、女川町がやられているのを見ました、15時25分に。「女川町がやられて、ここがまだやられていないということは、ここには来ないということか」と言うんです。緯度の違いで20分後に来るって、そういう発想がなかったですね。

あと、ちょうど3・11の1年ぐらい前にチリ沖地震があったでしょう。我々、沿岸部の人間全員、10時だか11時ごろ退去命令が出て、20時になってやっと解放されました。何にもなくて、私も頭にきて、名取市へ電話した。恥ずかしいですけど、「何でこんなに遅いんだ」って怒りました。助かったお年寄りが、「去年もそうだったから来ると思っていなかった」と言うのですよ。地球の裏側で起きた地震と真東の150ｋｍで起きた地震とを同じに考えています。そういうレベルなのです。

町内会の総会をちょうど津波の1年前にやりまして、白い布袋に白いヘルメットと懐中電灯と毛布と小さいラジオが入っていました。その時、みんなヘルメットをかぶって、お年寄りもこうして写メを撮っていましたよ。しかし3・11で逃げて助かった人で、誰ひとり、その袋を持っていた人はいません。全員に聞きました。その袋に、「これは玄関先に置いてください」と書いていない。渡すときに、町内会長はそんなことを言わなかった。みんな押し入れとか、小屋とか納屋に置いて終わり。使うか使わないかなんて関係ないの。本当に使ってほしかったら、そんなことを書くはず、絶対に。行政は住民に対して心を使うことはありません。予算と金は使いますけど。

ですから皆さん、必ずやってください。自分でお金を払って防災グッズを買って、玄関か玄関先に置いてください。子どもたちが、「これ、何？」と聞いたら話してやってください。

皆さん、子どもを持ったら、学校に行ったら、「防災教育どうなっているの、本当にこれでいいのですか」と話してくださいね、特に女性の方が。子どもを亡くしたらとんでもないことになりますよ。誰でも自分は逃げられると思っているの、無意識に。全員そうなのです。俺は大丈夫だと思っています。ところが、親は子どもがどこかへ行ったときこそ、行動が全部今までと違うものになっちゃうのです。当然、焦っているから判断ができなくなっちゃう。ですから、家族で必ず、万が一の日にどうするのだということを決めておいてください。連絡方法も、携帯で「伝言板」などありますよね。地域に行って、年寄りに「伝言板」のやり方を教えてください。やれることはすぐやってくださいよ。「俺のところはもういいんだ、もう来ないから」って本当に来ない？では堤防も何も要らなかった？むちゃくちゃ、堤防をつくっています。

◆災害後の金銭支援に関して

津波の後、一番目にやったことは何かといったら、公共事業だけはどんどん進めました。土建屋だけはじゃんじゃんもうかりました。仙台の町の中、飲み屋、もうばんばんもうかっています。被災地は皆、しゅんとしていました。それが現状です。

日本全国から、消防、開発している人間が来ました。秋保温泉という温泉が全部満杯になりました。日当、全員に5,000円が出ました、全ての公務員に。兼業ですよ、給料は別ですよ。毎日、5,000円使いましたからね。ものすごい景気よかったですよ。でも全然進んでいないです。

私は5年半、仮設住宅にいます。家賃は全部ただです。私が住んでいたうちと隣の工場の140坪ぐらいは危険区域で、1坪11万円の土地を95,000円で買い上げてもらいました。去年の12月に全部の住宅ローンが終わりました。全て皆さんの税金のおかげです。全て皆さんが、若い人たち、これから払う税金で払ってもらいます。なぜなら、国には1,000兆円以上の借金があるのです。その借金も返せない状況で、また被災地に何兆円という金を使っていますから、確実に皆さん、お仕事が始まったら、そこから全部取られますよ。確実に私の子ども、確実に私がまだ顔も見ない孫から、全部徴収されます。

去年の冬、「あれっ」と思ったことがあります。地方の「プレミアム券」ってわかりますか。1万円だと12,000円つくというやつね。愛知県はやらなかったのですかね。こっちのほうの田舎はあったのです。国の税金でね、名取市は1万円で13,000円です。そのプレミアム券や商品券は、半分が地元のお店、半分は量販店でも使えるものです。実は、田舎のお店というのはなかなか買物しづらいのですよ。だから、朝市にみんな持ってきて、もう「にこにこさん」ですね。でもよく考えてみたら、あれは2割景気がよくなって税収が増える見込みでやったのですよね。一回も聞いたことないですよ、景気がよくなったというのは。しかも、あの券を買える人は暇で余裕がある人だけです。仕事で一生懸命やっている人は、日曜日に出かけることはできない。だから必要とされる

人間に回ってこないのです。自分たちがうまいものを食ったり遊んだりするのを国の借金でやって、全部子どもにツケを回すんですよ。我々、そんな日本人になっちゃったのですよね。

私、被災地じゃなかったらこんなことは考えもしなかった。私は東北の田舎者として、おじとじじいに教育されました。「人から物をもらうな。もらったら返せよ」って。もらって黙っていたら、頭ゴツンとされたものですよ、田舎ですから。「皆さんにいっぱい応援をもらったんだ、申しわけない。」でも今はもらうのが当たり前になっちゃっている。借金も山ほどあって、まだ2、3割借金しておいしいものを食べている。そんな教育って、俺、受けたことないのだけど、今、そういう教育になっているのですかね。それじゃ、おそらく何にも解決しないと思います。

最低、我々大人として、1,000兆円以上の借金を残すのだから、子どもたちが自然災害に遭ったときに、命が助かるように、仕組みとか、つくってやらなくちゃならないというのは人間としての義務だと思いますよ。そのぐらい考えてくださいよ。そうでないと、みんな子ども、介護時を逃げちゃいます。友達もそう思っています。

最後に、できれば暇なときに、閖上に遊びに来てもらいたいと思うのですけど、被災地には物も金も要りません。十分にもらいました。

◆講演活動

何でこんな講演をするかというと、私はお金でお返しができないものですから、時間を使って、何とか1人でも多くの人たちにこういうふうに伝えたいと思っているのです。

被災地に応援が足りなかったなと思う人がいたら私にしゃべる場所と時間を提供してください。お願いします。でも土日はだめです。朝市をやっていて、魚屋が専門なので、平日の午後であれば大丈夫です。できれば1カ所じゃなくて、3カ所ぐらいにしてもらえば助かります。

今回は大学の方でいろいろ気を使っていただきましたが、基本的にこういう謝礼は一切いただいていません。心配しないでください。いや、「予算がねえから、何すっぺな」と思っているうちに津波にやられちまったのではちょっとまずいと思うのでね。

月に2回か3回、県外に行っています。来月は熊谷市と群馬県の太田市。群馬県の太田市は2回目です。最初は、6月か7月に町内会長の200人を集めて講演してきて、今度の来月が消防士と消防団が集まる。1月に太田市の係長の会とか何かという、何かわからないような会に招待してくれていますけど。こんな感じでしゃべっています。

できれば、本当に生の声を聞きたいです。本当に、目をつぶって自分の家族の遺体の手足がない、と一回想像してください。自分が死ぬとか、あんまりぴんとこないのですよ、我々。家族、子どもが死ぬということは相当ショックですから。それがいつでも起きる可能性があるのだということだけは忘れないでほしい。ぜひ、生徒の皆さん、将来、子どもを持つとか、いろんな成長をすると思います。できるだけ、自然災害に対する防災のあり方、避難訓練のあり方です、きちっと自己主張してくださいね。

「今までのやり方はこうだったのだから、こうでいいでしょう」、「いや、それは違います」と必ずもめますけど、要は1人の命が助かることが一番大事なのです。やり方や組織じゃないのです。それだけを皆さんにお願いして、今日のお話を終えたいと思います。どうもありがとうございました。

◆補足

自然災害が起きたとき、電気と水道は各地でなくなりますね。あと警察がいなくなります。警察は、人命救助と遺体回収以外しません。我々の閖上地区の遺体からの財布から、全てキャッシュが消えていました。時計も全部なくなります。指輪も全部外されています。田んぼの上にある車の全てからガソリンが抜かれております。

テレビで食事の配給のためみんなで並んでいますね。あれは「被災現場」じゃないです。あれは「避難所」です。被災現場は「無法地帯」になっています。田舎でさえそうですよ。東京とか名古屋でそうことが起きたらどうなるか、想像してくださいね。特に女性は非常に危険だ。石巻では、ほとんど毎日のように強姦被害が起きました。警察はいません。こうなると自然災害で命が助かったって、心に深い傷を残すようなことがあり得ます。これは絶対に忘れないでください。

その話を 1 年前、桜美林の中学生 800 人と高校生 1,400 人と先生 200 人へ 3 時間、話しましたけどびっくりしていました。桜美林高校ではすぐ動きがありまして、帰り道のあり方など、結論は出ていないのですけど、PTA の会議でいろんな話をしているそうです。

東京では夜、電気がなくて、電車がとまってどうするのかということ、非常に危ないと思います。ここも同じだと思いますよ。電気とリニアはストップ、車が電気ストップで信号なし、途中で橋が崩落、どうしますか、ということを常に考えてください。そういうことを常に考えることが他の自然災害の対策にもなります。

特に子どもたちと若い女性は、言いづらいのだけど、そういうことは必ず起きます。田舎でそうだったのですから、都会では必ずあります。これが現実です。そういうことが起きますので、常に考えて、皆さんに今後のことを考えてもらいたいなと思います。

こういう講演会は、対象が 5 人でも 10 人でもやります。連絡してください。

どうもありがとうございました。

付記　本稿は、2016 年 11 月 16 日に開催された、愛知県立大学生涯発達研究所主催連続講演会「災害と教育・福祉」（地域連携センター共催）の第 3 回の内容をまとめたものである。講演会は、2016 年度科学研究費補助金研究「教育と社会福祉の連携によるウェルビーイングの実現をめざす教育福祉の総合的研究」（基盤研究（B）課題番号：16H03766）の一環でもある。